

平成28年度倉敷市児童生徒学力調査 調査結果報告書

倉敷市教育委員会 指導課

平成28年7月

目 次

	ページ
1 調査目的	1
2 調査対象者・実施日・調査内容	1
3 倉敷市の学力の特徴	2
(1) 教科別平均正答率の比較	2
(2) 領域別・観点別平均正答率の比較	4
(3) 正答率度数分布について	8
(4) 平均正答率が高い問題・低い問題	10
(5) 設問別分析 (小学校国語)	12
(6) 設問別分析 (小学校算数)	13
(7) 設問別分析 (中学校国語)	14
(8) 設問別分析 (中学校数学)	15
(9) 設問別分析の結果から	16
4 考察	18
○ 参考資料	19

平成28年度 倉敷市児童生徒学力調査について

1 調査目的

- 小学校第5学年と中学校第2学年の全児童生徒の学力の達成状況を把握・分析し、教育指導の成果と課題を検証・改善するとともに、児童生徒に学力の達成状況を知らせ、児童生徒自らの学習等の改善に資する。
- 本調査と全国及び岡山県学力・学習状況調査を併せて活用することで、小学校5年生から中学校3年生まで、個人の学力の達成状況を継続して学校が把握し、児童生徒一人一人の指導に生かす。

2 調査対象者・実施日・調査内容

(1) 調査対象者

市立小学校63校 第5学年児童（国語）4, 324人
（算数）4, 324人
市立中学校26校 第2学年生徒（国語）4, 126人
（数学）4, 130人

(2) 実施日 平成28年4月19日（火）

(3) 調査内容

教科に関する調査（国語及び算数・数学）

(※) 受験者数並びに正答率の差等について

- ・「全国平均」は、約350自治体で受検した小学生約15万人、中学生約10万人の平均正答率。
- ・正答率の差については、小数第2位以降の数値も反映されていることから、0.1ポイントの差異が生じている場合がある。
- ・国語科の領域及び観点において、「言語についての知識・理解・技能」を「言語」と表記している。

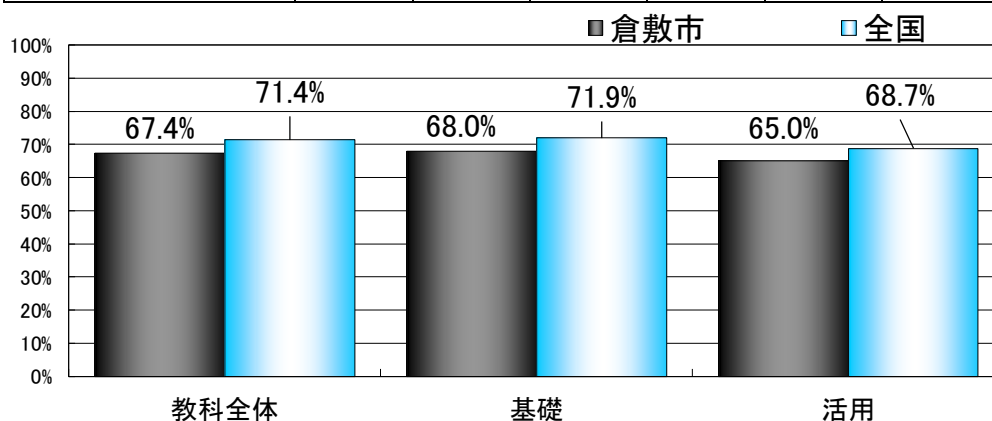
3 倉敷市の学力の特徴

(1) 教科別平均正答率の比較

【小学校国語】

[%]

	教科全体		基礎		活用	
	H28	H27	H28	H27	H28	H27
倉敷市	67.4	67.1	68.0	67.9	65.0	63.6
全国	71.4	70.9	71.9	71.9	68.7	66.1
全国平均との差	-3.9	-3.7	-4.0	-4.0	-3.7	-2.5

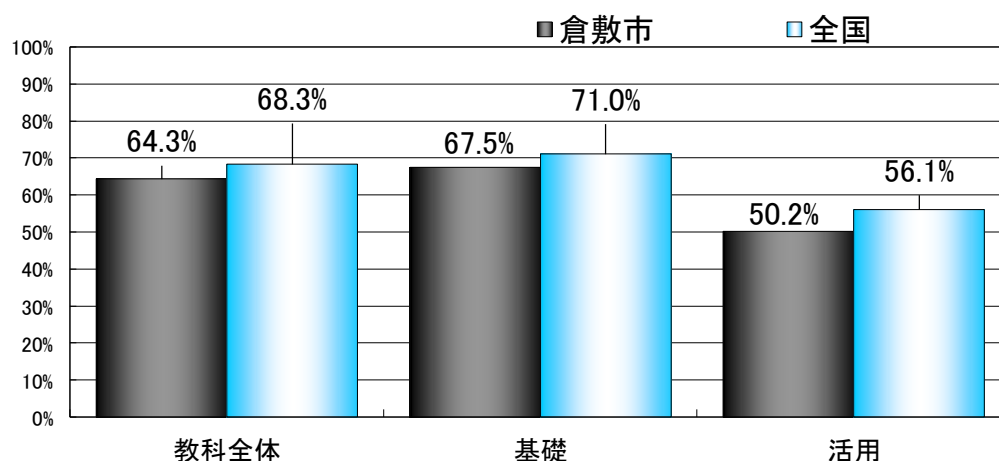


○平成 28 年度の全国平均との比較では、教科全体では-3.9 ポイント、基礎では-4.0 ポイント、活用では-3.7 ポイントとなっており、すべてにおいて下回っている。平成 27 年度と比較すると、教科全体と活用が、全国平均との差がやや広がっている。

【小学校算数】

[%]

	教科全体		基礎		活用	
	H28	H27	H28	H27	H28	H27
倉敷市	64.3	65.2	67.5	68.1	50.2	52.1
全国	68.3	69.8	71.0	72.1	56.1	59.5
全国平均との差	-4.0	-4.6	-3.6	-4.0	-5.9	-7.4

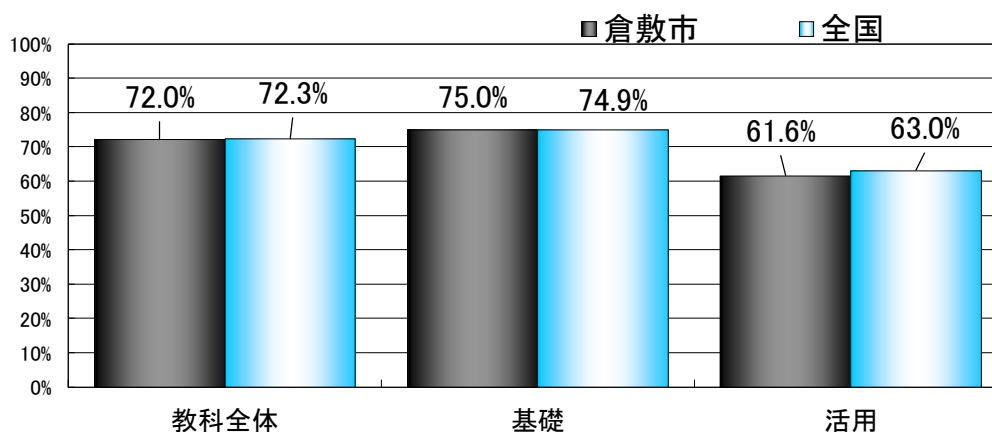


○平成 28 年度の全国平均との比較では、教科全体では-4.0 ポイント、基礎では-3.6 ポイント、活用では-5.9 ポイントとなっており、すべてにおいて下回っているが、平成 27 年度と比較すると、教科全体、基礎、活用のすべてで差が縮まっており、改善が見られる。

【中学校国語】

[%]

	教科全体		基礎		活用	
	H28	H27	H28	H27	H28	H27
倉敷市	72.0	61.6	75.0	65.7	61.6	47.1
全国	72.3	64.3	74.9	68.0	63.0	50.9
全国平均との差	-0.3	-2.6	0.1	-2.3	-1.5	-3.9

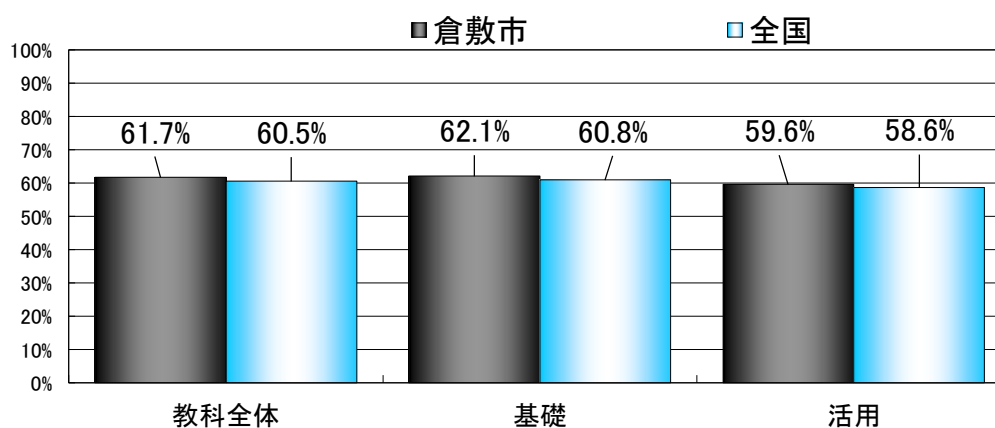


○平成 28 年度の全国平均との比較では、基礎では+0.1 ポイントとなっている。教科全体では、-0.3 ポイント、活用では-1.5 ポイントとなっているが、平成 27 年度と比較すると、教科全体、基礎、活用は、2.0 ポイント以上上昇し、全国平均との差が縮まっており、改善が見られる。

【中学校数学】

[%]

	教科全体		基礎		活用	
	H28	H27	H28	H27	H28	H27
倉敷市	61.7	58.3	62.1	61.2	59.6	45.1
全国	60.5	60.7	60.8	63.1	58.6	49.8
全国平均との差	1.2	-2.4	1.2	-1.9	1.0	-4.7



○平成 28 年度の全国平均との比較では、教科全体では+1.2 ポイント、基礎では+1.2 ポイント、活用では+1.0 ポイントとなっており、すべてにおいて上回り、改善が見られる。

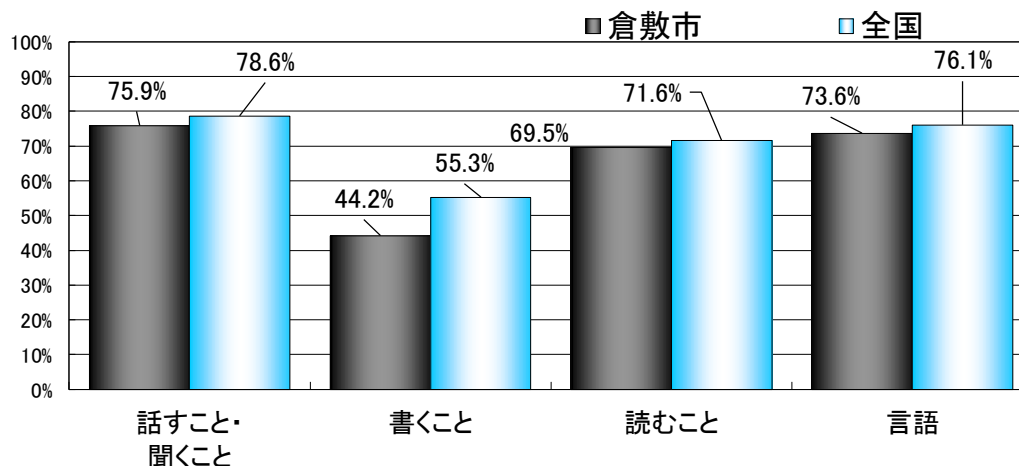
(2) 領域別・観点別平均正答率の比較

①小学校国語

【領域】

〔%〕

	話すこと・聞くこと		書くこと		読むこと		言語	
	H28	H27	H28	H27	H28	H27	H28	H27
倉敷市	75.9	70.7	44.2	52.0	69.5	64.3	73.6	73.3
全国	78.6	72.3	55.3	64.6	71.6	66.5	76.1	75.9
全国平均との差	-2.7	-1.6	-11.1	-12.6	-2.1	-2.2	-2.5	-2.6



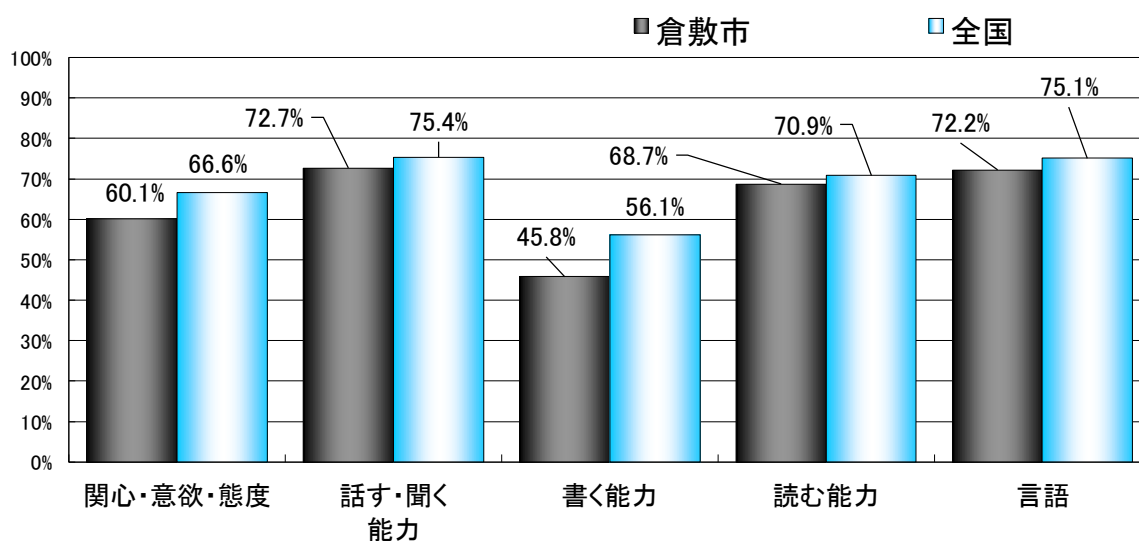
○すべての領域で全国平均を下回っている。特に「書くこと」については、-11.1ポイントとなっており、全国平均を大きく下回っている。

○「話すこと・聞くこと」以外は、昨年度と比べて全国平均との差が縮まっている。

【観点】

〔%〕

	国語への関心・意欲・態度		話す・聞く能力		書く能力		読む能力		言語	
	H28	H27	H28	H27	H28	H27	H28	H27	H28	H27
倉敷市	60.1	61.2	72.7	70.7	45.8	49.6	68.7	64.3	72.2	72.3
全国	66.6	66.9	75.4	72.3	56.1	60.5	70.9	66.5	75.1	75.3
全国平均との差	-6.5	-5.7	-2.7	-1.5	-10.3	-10.9	-2.2	-2.2	-2.9	-3.0



○すべての観点で全国平均を下回っている。特に「書く能力」については、-10.3ポイントとなっており、全国平均を大きく下回っている。

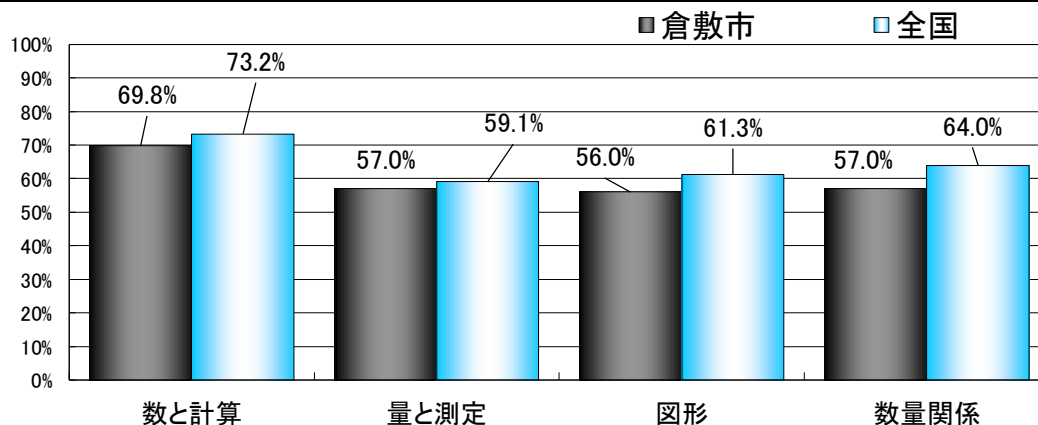
○「書く能力」と「言語」は、昨年度と比べて全国平均との差が縮まっている。

②小学校算数

【領域】

[%]

	数と計算		量と測定		図形		数量関係	
	H28	H27	H28	H27	H28	H27	H28	H27
倉敷市	69.8	72.8	57.0	63.6	56.0	45.8	57.0	53.2
全国	73.2	75.9	59.1	66.8	61.3	54.2	64.0	61.6
全国平均との差	-3.5	-3.1	-2.1	-3.2	-5.2	-8.4	-6.9	-8.4



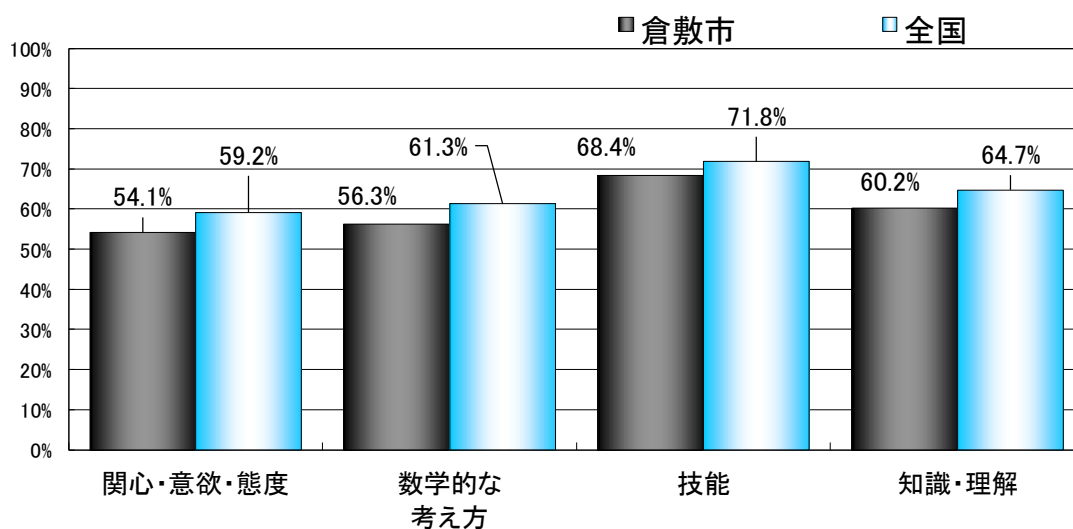
○すべての領域において、全国平均を下回っている。特に「図形」と「数量関係」において、全国平均との差が大きい。

○「数と計算」以外は、昨年度と比べて全国平均との差が縮まっており、改善が見られる。

【観点】

[%]

	算数への関心・意欲・態度		数学的な考え方		数量や図形についての技能		数量や図形についての知識・理解	
	H28	H27	H28	H27	H28	H27	H28	H27
倉敷市	54.1	53.9	56.3	57.7	68.4	68.5	60.2	61.5
全国	59.2	62.6	61.3	64.1	71.8	72.6	64.7	66.4
全国平均との差	-5.1	-8.7	-5.0	-6.4	-3.5	-4.1	-4.5	-4.9



○すべての観点において、全国平均を下回っている。特に「算数への関心・意欲・態度」「数学的な考え方」において、全国平均との差が大きい。

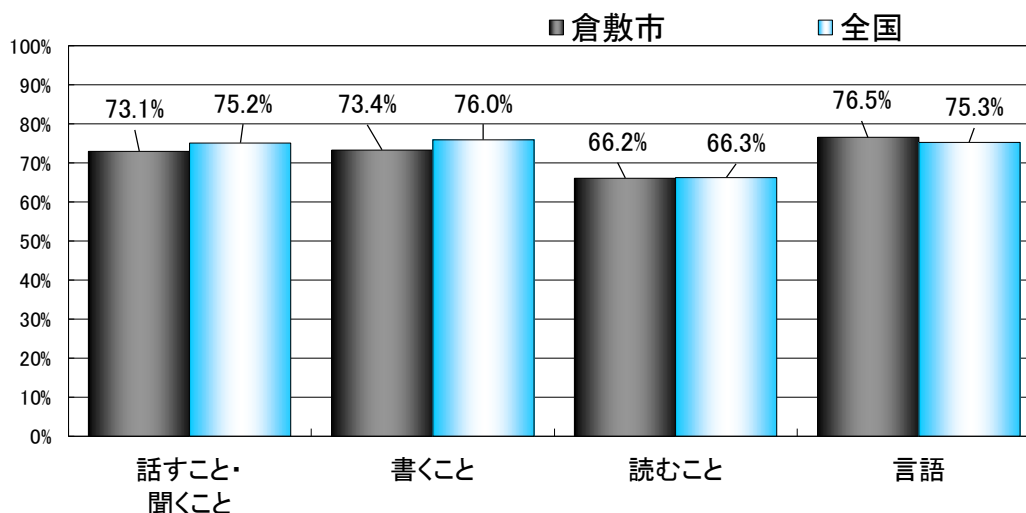
○すべての観点で、昨年度と比べて全国平均との差が縮まっており、改善が見られる。

③中学校国語

【領域】

〔%〕

	話すこと・聞くこと		書くこと		読むこと		言語	
	H28	H27	H28	H27	H28	H27	H28	H27
倉敷市	73.1	74.1	73.4	72.0	66.2	49.7	76.5	64.0
全国	75.2	78.6	76.0	77.7	66.3	53.1	75.3	64.2
全国平均との差	-2.1	-4.5	-2.6	-5.7	-0.1	-3.4	1.2	-0.2

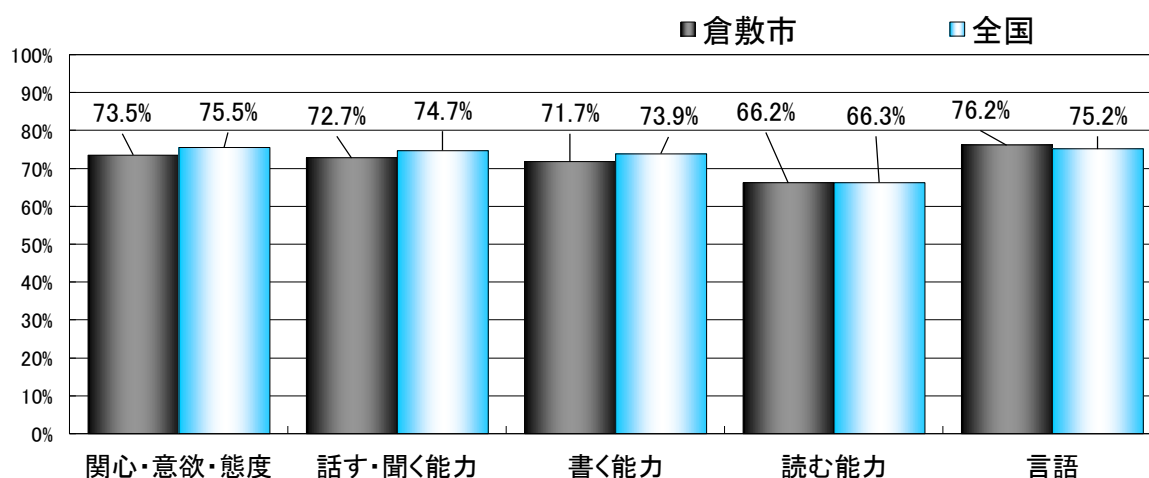


○「言語」については、全国平均を上回っている。「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」については、全国平均を下回っているが、昨年度より全国平均との差が縮まっており、改善が見られる。

【観点】

〔%〕

	国語への関心・意欲・態度		話す・聞く能力		書く能力		読む能力		言語	
	H28	H27	H28	H27	H28	H27	H28	H27	H28	H27
倉敷市	73.5	68.8	72.7	74.1	71.7	68.2	66.2	49.7	76.2	64.1
全国	75.5	73.4	74.7	78.6	73.9	73.5	66.3	53.1	75.2	64.5
全国平均との差	-2.0	-4.6	-1.9	-4.4	-2.1	-5.3	-0.1	-3.3	1.0	-0.4



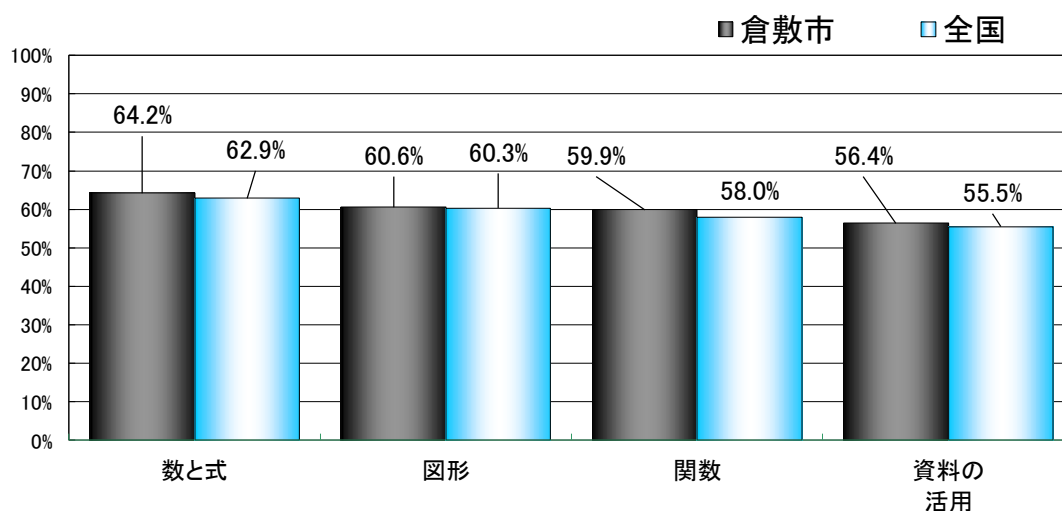
○「言語」については、1.0 ポイント全国平均を上回っている。それ以外の観点については、全国平均を下回っているが、昨年度より全国平均との差が縮まっており、すべての観点で改善が見られる。

④中学校数学

【領域】

〔%〕

	数と式		図形		関数		資料の活用	
	H28	H27	H28	H27	H28	H27	H28	H27
倉敷市	64.2	67.1	60.6	59.6	59.9	53.6	56.4	41.5
全国	62.9	66.2	60.3	64.6	58.0	57.1	55.5	46.9
全国平均との差	1.4	0.9	0.3	-5.0	2.0	-3.5	0.9	-5.4

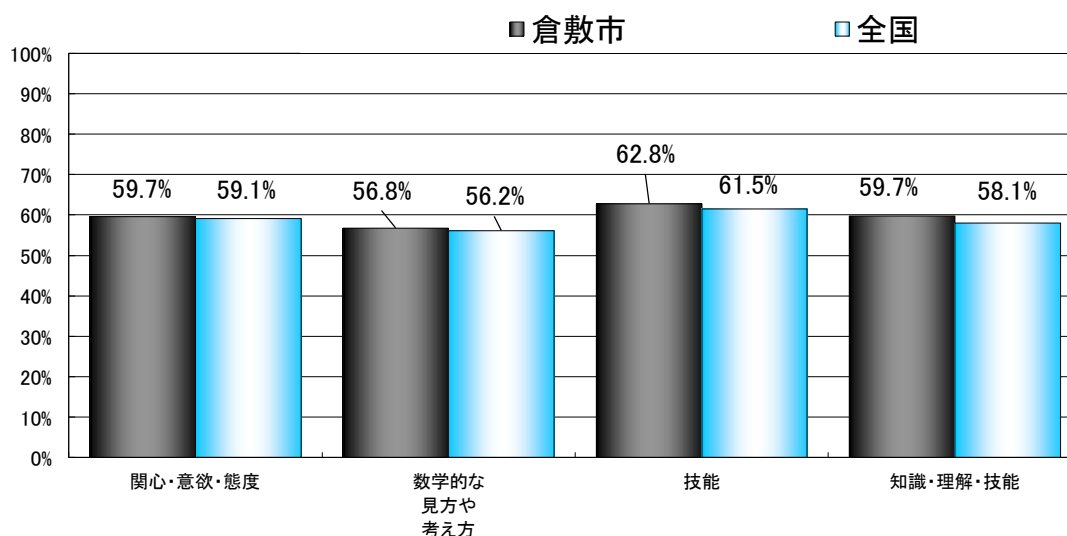


○すべての領域で、全国平均を上回っている。特に「図形」「関数」「資料の活用」においては、昨年度と比べて5ポイント以上の著しい改善が見られた。

【観点】

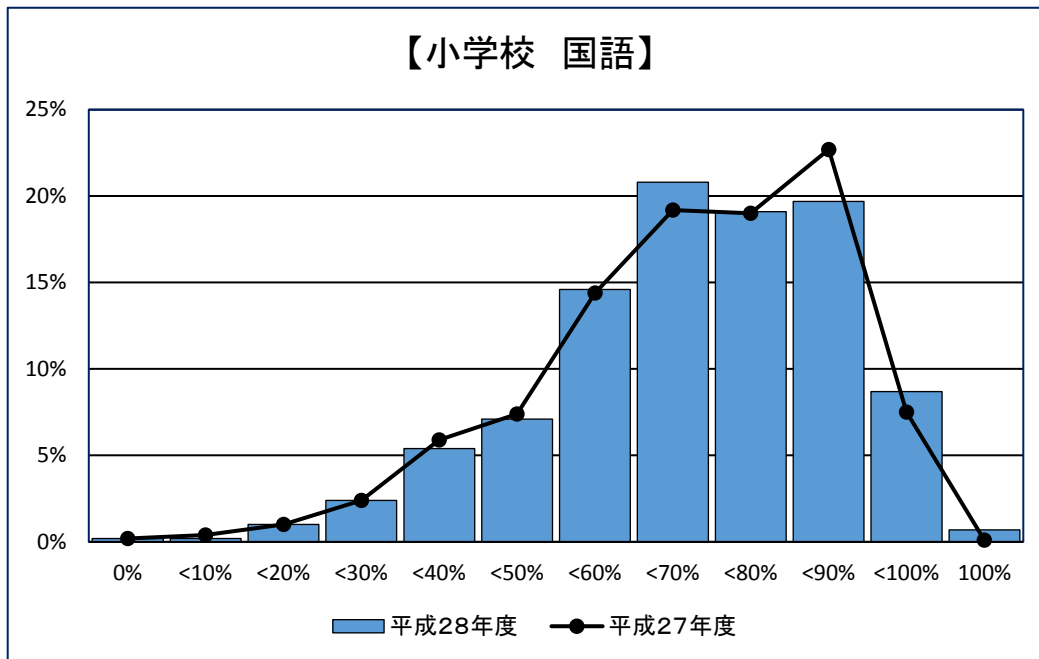
〔%〕

	数学への関心・意欲・態度		数学的な見方や考え方		数学的な技能		数量や図形についての知識・理解	
	H28	H27	H28	H27	H28	H27	H28	H27
倉敷市	59.7	48.4	56.8	50.8	62.8	59.8	59.7	56.3
全国	59.1	53.1	56.2	55.1	61.5	61.2	58.1	59.4
全国平均との差	0.6	-4.8	0.6	-4.3	1.3	-1.4	1.6	-3.0

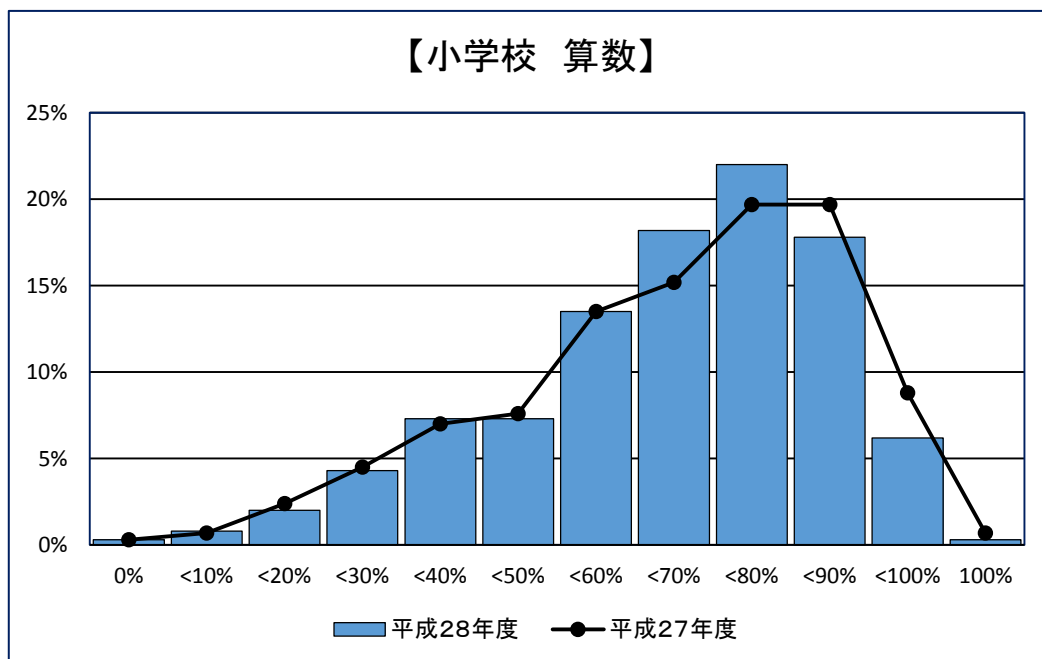


○すべての観点で、全国平均を上回っている。特に「数学への関心・意欲・態度」においては、昨年度と比べて5ポイント以上の著しい改善が見られた。

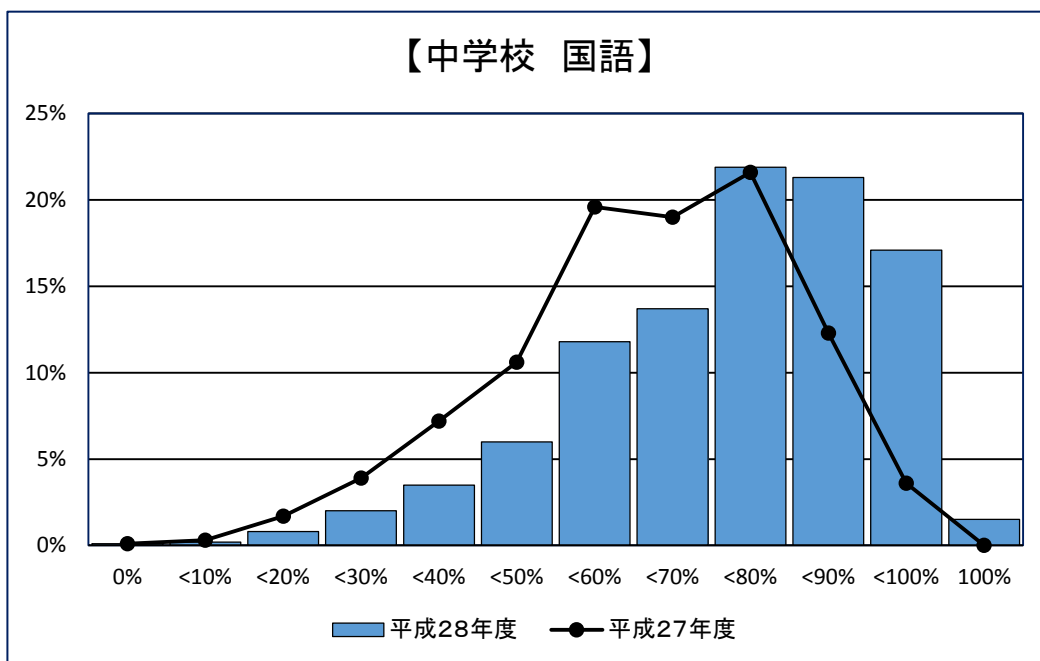
(3) 正答率度数分布について



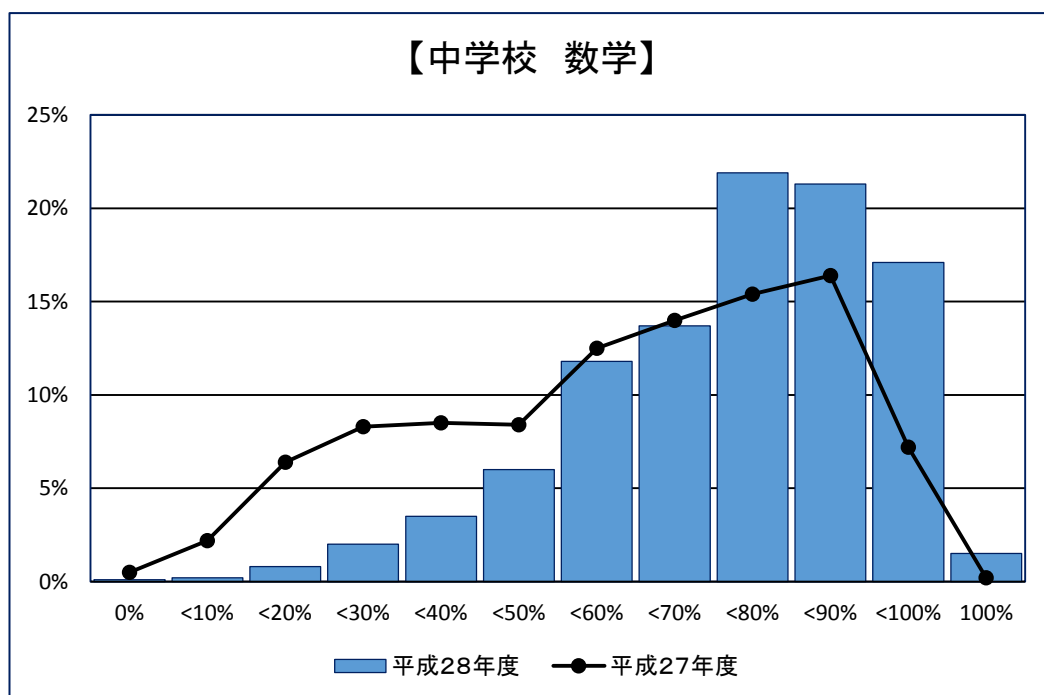
- 正答率60%以上70%未満の層の割合が、20.8%で最も高く、山型の分布になっている。
- 平成27年度と比べると、正答率60%以上70%未満の層の割合が増え、正答率80%以上90%未満の層の割合が減っている。



- 正答率70%以上80%未満の層の割合が、22.0%で最も高く、山型の分布になっている。
- 平成27年度と比べると、正答率60%以上70%未満及び70%以上80%未満の層の割合が増え、正答率80%以上90%未満及び正答率90%以上100%未満の層の割合が減っている。



- 正答率70%以上80%未満の層の割合が、21.9%で最も高く、右よりの山型の分布となっている。
- 平成27年度と比べると、正答率70%未満の層が減り、80%以上の層が増えている。



- 正答率70%以上80%未満の層の割合が、21.9%で最も高く、右よりの山型の分布になっている。
- 平成27年度と比べると、正答率50%未満の層が減り、正答率70%以上の層が増えている。

(4) 平均正答率が高い問題・低い問題

◆平均正答率が全国平均を上回っている主な問題

【小学校】

第5学年国語

大問番号	中間番号	小問番号	問題の内容	出題のねらい	倉敷市	全国	差
2	(2)	①	漢字を書く	第4学年配当漢字(速達)を書くことができる。	58.4	50.0	+7.9
2	(2)	④	漢字を書く	第4学年配当漢字(結)ぶを書くことができる。	81.5	81.4	+0.1
2	(1)	④	漢字を読む	第4学年配当漢字(試)みるを読むことができる。	84.0	83.9	+0.1

第5学年算数

大問番号	中間番号	小問番号	問題の内容	出題のねらい	倉敷市	全国	差
2	(2)		億と兆・がい数の表し方	大きな数を10でわった数を求めることができる。	88.9	85.5	+3.4
1	(8)		分数	帯分数－真分数＝真分数(繰り下がりあり)の同分母分数の計算ができる。	86.3	84.7	+1.6
1	(7)		分数	帯分数＋帯分数＝帯分数(繰り上がりあり)の同分母分数の計算ができる。	77.3	76.1	+1.2

【中学校】

第2学年国語

大問番号	中間番号	小問番号	問題の内容	出題のねらい	倉敷市	全国	差
3	(1)		文法・語句に関する知識	単語について理解している。「雨の日に友達と美術館に行く。」の五番目になる単語を抜き出す。	83.9	70.6	+13.3
3	(3)		文法・語句に関する知識	歴史的仮名遣い「いたはりける」を現代仮名遣いに直すことができる。	49.7	42.1	+7.6
5	(1)		文学作品の内容を読み取る	登場人物の様子をとらえることができる。	76.6	73.4	+3.2

第2学年数学

大問番号	中間番号	小問番号	問題の内容	出題のねらい	倉敷市	全国	差
9	(2)		比例・反比例	反比例の関係にある1組のx, yの値から、反比例の式を求めることができる。	67.1	61.0	+6.1
5			文字式	数量の間の関係を不等式に表すことができる。	61.7	55.6	+6.1
10	(2)		比例・反比例	比例の式から、比例のグラフをかくことができる。	57.6	52.1	+5.5

◆平均正答率が、全国平均を下回っている主な問題

【小学校】

第5学年国語

大問番号	中間番号	小問番号	問題の内容	出題のねらい	倉敷市	全国	差
7			作文	2段落構成で文章を書くことができる。	38.0	51.4	-13.4
7			作文	指定された長さで文章を書くことができる。	50.0	63.3	-13.3
7			作文	目的や必要に応じて、文章に書こうとするものの具体的な内容を書くことができる。	40.7	53.5	-12.8

第5学年算数

大問番号	中間番号	小問番号	問題の内容	出題のねらい	倉敷市	全国	差
10			計算のきまり・変わり方調べ	分配法則を理解している。	39.1	49.8	-10.7
14			いろいろな形	四角形の対角線の性質を理解している。	46.1	55.4	-9.3
20	(1)		折れ線グラフと表	2つの折れ線グラフの値の差を読み取ることができる。	65.7	73.1	-7.4

【中学校】

第2学年国語

大問番号	中間番号	小問番号	問題の内容	出題のねらい	倉敷市	全国	差
2	(2)	②	漢字を書く	小学校で学習した漢字を書くことができる。(ミジユク=未熟)	41.0	45.3	-4.3
7			作文	3段落構成で文章を書くことができる。	66.7	71.6	-3.9
7			作文	指定された文字数で書くことができる。	70.8	74.6	-3.8

第2学年数学

大問番号	中間番号	小問番号	問題の内容	出題のねらい	倉敷市	全国	差
1	(5)		文字式	同類項をまとめることができる。	55.2	60.1	-4.9
1	(7)		文字式	分子が1次式である分数の加法ができる。	16.1	20.9	-4.8
17	(1)		資料の散らばりと代表値	ヒストグラムの階級の幅を求めることができる。	34.6	38.3	-3.7

(5)設問別分析(小学校国語)

通し番号	大問番号	中問番号	小問番号	解答形式	観点					活用観点	問題の内容	領域	出題のねらい	小学校学習指導要領	倉敷市		全国			
					関	話	書	読	言						正答率	無解答	正答率	差		
1	1	(1)		選択	○	◎						話の中心に気をつけて聞くことができる。	3・4年A(1)エ	93.7	0.4	94.2	-0.5			
2		(2)	選択	○	◎						話し合いの内ようを聞き取る	話し方の工夫に気をつけて聞くことができる。		72.0	0.6	77.4	-5.4			
3		(3)		記述	○	◎	○			表		互いの考えの相違点や共通点を考えながら、進んで話し合おうとすることができる。	3・4年A(1)エ・オ	62.0	1.8	64.3	-2.3			
4	2	(1)	①	短答					◎		漢字を読む	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	第4学年配当漢字を読むことができる。	3・4年伝国(1)ウ(イ)	97.7	1.2	97.6	0.1		
5			②	短答					◎						94.3	1.4	95.2	-0.9		
6			③	短答					◎						97.7	1.2	98.0	-0.3		
7			④	短答					◎						84.0	5.1	83.9	0.1		
8		(2)	①	短答					◎		漢字を書く	第4学年配当漢字を書くことができる。	58.4	6.6	50.5	7.9				
9			②	短答					◎				63.8	8.4	69.9	-6.1				
10			③	短答					◎				58.1	20.5	64.1	-6.0				
11			④	短答					◎				81.5	8.4	81.4	0.1				
12	3	(1)		選択					◎	言葉の学習	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	文の構成(連体修飾語)について理解している。	3・4年伝国(1)イ(キ)	62.8	0.9	66.2	-3.4			
13		(2)		選択					◎					文の構成(連用修飾語)について理解している。	40.1	1.3	48.1	-8.0		
14		(3)		選択					◎					指示語の使い方を理解している。	3・4年伝国(1)イ(ク)	88.2	1.1	91.1	-2.9	
15		(4)		選択					◎					思	漢字辞典の使い方を理解している。	3・4年伝国(1)イ(カ)	57.0	2.3	67.0	-10.0
16	4	(1)		選択					◎	物語の内ようを読み取る	読むこと	登場人物の気持ちを読み取ることができる。	3・4年C(1)ウ	76.6	0.9	77.7	-1.1			
17		(2)		選択					◎					73.3	1.2	75.0	-1.7			
18		(3)		選択					◎					56.7	2.8	59.6	-2.9			
19		(4)		選択					◎					思	目的や必要に応じて、登場人物の気持ちを読み取ることができる。	80.2	1.9	80.9	-0.7	
20	5	(1)		選択					◎	説明文の内ようを読み取る	読むこと	文章の内容を的確に読み取ることができる。	3・4年C(1)イ	61.9	2.0	65.1	-3.2			
21		(2)		選択					◎					77.5	2.0	79.0	-1.5			
22		(3)		選択					◎					59.6	2.8	63.3	-3.7			
23	6	(1)		選択	○	○			◎	話し合いをもとにポスターを作る	読むこと	与えられた情報を読み取り、ポスターへの工夫を理解することができる。	3・4年C(1)エ	70.4	3.2	72.0	-1.6			
24		(2)		記述	○	○	◎	○						表	書くこと	与えられた情報を読み取り、ポスターに補足する文章を書くことができる。	3・4年B(1)ウ	55.6	10.6	59.4
25	7			記述	○		◎			作文	書くこと	指定された長さで文章を書くことができる。	3・4年B(1)ア	50.0	16.7	63.3	-13.3			
26				記述			◎	○						3・4年B(1)イ	2段落構成で文章を書くことができる。	38.0	16.7	51.4	-13.4	
27				記述	○		◎								目的や必要に応じて、文章に書こうとすることを明確に示すことができる。	3・4年B(1)ウ	36.6	16.7	48.8	-12.2
28				記述	○		◎								目的や必要に応じて、文章に書こうとすることの具体的な内容を書くことができる。	40.7	16.7	53.5	-12.8	

【観点について】 ◎が主たる観点、○が従たる観点を表しています。観点の表記の意味は右記の通りです。(関)国語への関心・意欲・態度、(話)話す・聞く能力、(書)書く能力、(読)読む能力、(言)言語についての知識・理解・技能

【活用観点について】 活用観点の表記の意味は、右記の通りです。(思)思考・判断力、(表)表現力

(6)設問別分析(小学校算数)

通し 番号	大問 番号	中問 番号	小問 番号	解答形式	観点				活用 観点	問題の内容	領域	出題のねらい	小学校学習 指導要領	倉敷市		全国		
					関	考	技	知						正答率	無解答	正答率	差	
1	1	(1)		短答			◎			計算のふく習	数と計算	2けた÷1けた=1けた(余りあり)の計算ができる。	3年A(4)ウ	84.0	1.0	87.8	-3.8	
2		(2)		短答			◎			わり算		2けた÷1けた=2けた(余りあり)の計算ができる。	4年A(3)イ	80.0	1.8	81.9	-1.9	
3		(3)		短答			◎					3けた÷2けた=2けた(余りあり)の計算ができる。		61.1	5.5	63.4	-2.3	
4		(4)		短答			◎			計算のふく習		小数第一位+整数の計算ができる。	3年A(5)イ	67.6	0.7	73.5	-5.9	
5		(5)		短答			◎			小数		小数第二位+小数第二位(=整数)の計算ができる。	4年A(5)イ	90.1	1.0	91.4	-1.3	
6		(6)		短答			◎					小数第一位-小数第三位(差が純小数)の計算ができる。		69.9	3.1	74.7	-4.8	
7		(7)		短答			◎			分数		帯分数+帯分数=帯分数(繰り上がりあり)の同分母分数の計算ができる。	4年A(6)イ	77.3	1.8	76.1	1.2	
8		(8)		短答			◎					帯分数-真分数=真分数(繰り下がりあり)の同分母分数の計算ができる。		86.3	2.1	84.7	1.6	
9		(9)		短答			◎			小数		小数第一位×整数の計算ができる。	4年A(5)ウ	82.5	2.2	84.6	-2.1	
10		(10)		短答			◎					小数第二位÷整数=小数第二位(商が純小数)の計算ができる。		62.5	9.3	63.6	-1.1	
11	2	(1)		選択			○◎			億と兆・がい数の表し方	数と計算	命数法で書かれた数を記数法で表すことができる。	4年A(1)ア	69.3	0.8	76.3	-7.0	
12		(2)		選択			◎○					大きな数を10でわった数を求めることができる。		88.9	0.9	85.5	3.4	
13	3	(1)		選択			○◎			小数	数と計算	小数のしくみを理解している。	4年A(5)ア	82.9	0.8	85.0	-2.1	
14		(2)		選択			◎○					小数を用いた長さの単位換算ができる。		62.6	1.5	69.1	-6.5	
15	4			選択			○◎			分数	数と計算	数直線上に示された分数を読み取ることができる。	4年A(6)	77.9	1.5	83.9	-6.0	
16	5			選択	○	○	◎			分数	数と計算	仮分数、真分数、整数、帯分数を大小順に並べることができる。	4年A(6)	71.4	1.6	71.2	0.2	
17	6			選択		◎		○		億と兆・がい数の表し方	数と計算	概数に対応する数の範囲を理解している。	4年A(2)イ	54.8	1.8	61.4	-6.6	
18	7	(1)		選択		◎		○	思	わり算	数と計算	倍とわり算の文章問題を表した図を理解している。	4年A(3)イ	67.4	2.6	71.3	-3.9	
19		(2)		選択		◎		○				図を使って、倍とわり算の文章問題に合った式を選ぶことができる。		71.8	2.7	76.8	-5.0	
20	8	式		短答		◎		○		小数	数と計算	文章問題を解くための整数÷整数=小数第一位の除法の立式ができる。	4年A(5)ウ	64.9	10.7	71.2	-6.3	
21		答え		短答			◎					文章問題を解くために立式した整数÷整数=小数第一位の式から、正しい答えを求めることができる。		52.7	11.1	61.6	-8.9	
22	9			選択			◎	○		計算のきまり・変わり方調べ	数量関係	四則の混じった式の計算順序を理解している。	4年D(2)ア	62.6	5.6	65.4	-2.8	
23	10			選択			◎	○		計算のきまり・変わり方調べ	数量関係	分配法則を理解している。	4年D(3)ア	39.1	4.3	49.8	-10.7	
24	11	(1)		選択			○◎			角の大きさ	量と測定	分度器の中に示された角の大きさの目盛りを読み取ることができる。	4年B(2)ア、イ	71.6	2.0	72.1	-0.5	
25		(2)		選択			◎		○			思		180°より大きい角の大きさの見当をつけることができる。	74.4	2.6	75.6	-1.2
26	12	(1)		短答			◎	○		面積	量と測定	長方形の面積を求めることができる。	4年B(1)イ	89.9	4.9	89.3	0.6	
27		(2)		選択	○		○	◎						身近にあるものの面積を推察することができる。	4年B(1)ア	13.0	4.7	18.7
28	13			選択	○	◎		○		面積	量と測定	複合図形で、面積を求める考え方や図から式がわかる。	4年B(1)イ	75.3	3.9	76.3	-1.0	
29	14			選択				◎		いろいろな形	図形	四角形の対角線の性質を理解している。	4年C(1)イ	46.1	4.0	55.4	-9.3	
30	15			選択				◎		いろいろな形	図形	直方体のある辺と平行な辺がわかる。	4年C(2)ア、イ	78.1	4.3	77.2	0.9	
31	16			短答		◎		○		計算のきまり・変わり方調べ	数量関係	伴って変わる2つの数量の関係(比例)を式に表すことができる。	4年D(2)ウ	57.4	10.6	61.7	-4.3	
32	17			短答	○		◎	○		いろいろな形	図形	平行四辺形の作図ができる。	4年C(1)イ	47.7	13.9	55.1	-7.4	
33	18			選択		○		◎		いろいろな形	図形	平行四辺形の性質を理解している。	4年C(1)イ	52.2	12.3	57.3	-5.1	
34	19			記述	○	◎		○	表	折れ線グラフと表	数量関係	二次元表の読み方を理解している。	4年D(4)ア	59.7	16.8	69.7	-10.0	
35	20	(1)		短答		○	○	◎	思	折れ線グラフと表	数量関係	2つの折れ線グラフの値の差を読み取ることができる。	4年D(4)イ	65.7	15.6	73.1	-7.4	
36		(2)		短答	○	○		◎	思			折れ線グラフを正しく読み取ることができる。		57.7	17.7	64.1	-6.4	
37	21	(1)		短答		◎		○	○	思	面積	量と測定	地図から情報を読み取り、面積を求めることができる。	4年B(1)イ	17.5	30.2	22.5	-5.0
38		(2)		記述		◎			○	表	億と兆・がい数の表し方	数と計算	切り上げて見積もることの意味を理解し、枚数が足りるわけを説明できる。	4年A(2)イ、ウ	9.0	39.1	16.3	-7.3

【観点について】 ◎が主たる観点、○が従たる観点を表しています。観点の表記の意味は右記の通りです。(関)国語への関心・意欲・態度、(話)話す・聞く能力、(書)書く能力、(読)読む能力、(言)言語についての知識・理解・技能

【活用観点について】 活用観点を表記の意味は、右記の通りです。(思)思考・判断力、(表)表現力

(7)設問別分析(中学校国語)

通し 番号	大問 番号	中間 番号	小問 番号	解答形式	観点					活用 観点	問題の内容	領域	出題のねらい	中学校学習 指導要領	倉敷市		全国	
					関	話	書	読	言						正答率	無解答	正答率	差
1	1	(1)		選択	○	◎					話し合いの内容 を聞き取る	話すこと・聞 くこと	話の内容を正確に聞き取ることができる。	中学1年A (1)エ	92.4	1.2	93.1	-0.7
2		(2)	選択	○	◎					聞き手に理解してもらうための話し方の工夫を聞き取ることができる。			69.9	1.4	72.5	-2.6		
3		(3)	選択	○	◎								司会者の工夫を聞き取ることができる。	52.3	1.4	55.1	-2.8	
4		(4)	記述	○	◎	○				表			話し手の意見に対して自分の考えを持ち、評価することができる。	77.5	10.7	80.0	-2.5	
5	2	(1)	①	短答					◎		漢字を読む	伝統的な言 語文化と国 語の特質に 関する事項	第1学年までに学習した漢字を読むことができる。	中学1年伝 国(1)ウ (ア)	93.2	2.4	92.7	0.5
6			②	短答					◎						93.7	3.1	92.9	0.8
7			③	短答					◎						98.8	0.6	98.7	0.1
8			④	短答					◎						93.9	1.2	93.2	0.7
9		(2)	①	短答					◎		漢字を書く	伝統的な言 語文化と国 語の特質に 関する事項	小学校で学習した漢字を書くことができる。	中学1年伝 国(1)ウ (イ)	86.1	7.1	86.7	-0.6
10			②	短答					◎						41.0	29.5	45.3	-4.3
11			③	短答					◎						56.3	36.0	55.8	0.5
12			④	短答					◎						92.2	5.1	93.1	-0.9
13	3	(1)		短答					◎	文法・語句に 関する知識	伝統的な言 語文化と国 語の特質に 関する事項	単語について理解している。	中学1年伝 国(1)イ (エ)	83.9	1.1	70.6	13.3	
14		(2)		選択					◎			文節の関係について理解している。	82.8	1.5	82.3	0.5		
15		(3)		短答					◎				歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直すことができる。	49.7	11.9	42.1	7.6	
16		(4)		選択					◎			思	故事成語について理解している。	46.6	2.1	50.2	-3.6	
17	4	(1)		選択					◎	説明文の内容を 読み取る	読むこと	文章の展開に即して内容をとらえることができる。	中学1年C (1)イ	78.9	1.5	77.9	1.0	
18		(2)		選択					◎			文章の展開をとらえて、その内容を整理してまとめることができる。		79.7	1.7	79.7	0.0	
19		(3)		選択					◎			思		文章の構成や展開をとらえることができる。	59.4	2.0	60.1	-0.7
20		(4)		選択					◎					78.9	1.5	77.9	1.0	
21	5	(1)		短答					◎	文学作品の内容 を読み取る	読むこと	登場人物の様子をとらえることができる。	中学1年C (1)ウ	76.6	11.1	73.4	3.2	
22		(2)		選択					◎			登場人物の心情をとらえることができる。		60.8	2.0	61.1	-0.3	
23		(3)		選択					◎			思		登場人物の人物像をとらえることができる。	54.6	2.4	56.9	-2.3
24		(4)		選択					◎					表現の特徴をとらえることができる。	61.8	2.9	62.6	-0.8
25	6	(1)		選択					◎	新聞記事の内容 を読み取る	読むこと	新聞記事と資料を読み比べて、新聞記事の工夫を選ぶことができる。	中学1年C (1)エ	64.1	2.7	63.4	0.7	
26		(2)		記述	○	○	○	◎				表	新聞記事の内容を読み取り、内容に合った写真を示す場面を理由とともに述べるすることができる。	70.3	13.8	70.6	-0.3	
27		(3)		選択					◎			思	新聞記事とそれを修正した内容を読み比べて、書きかえた意図を選ぶことができる。	58.6	3.8	60.0	-1.4	
28	7			記述	○	◎				作文	書くこと	指定された文字数で書くことができる。	中学1年B (1)イ	70.8	14.6	74.6	-3.8	
29				記述		◎		○				3段落構成で文章を書くことができる。		67.7	14.6	71.6	-3.9	
30				記述	○	◎							読み取った内容を明確にして書くことができる。	中学1年B (1)ウ	81.4	14.6	82.2	-0.8
31				記述	○	◎							73.1		14.6	74.7	-1.6	
32				記述	○	◎							自分の考えを明確にして書くことができる。		73.9	14.6	76.9	-3.0

【観点について】 ◎が主たる観点、○が従たる観点を表しています。観点の表記の意味は右記の通りです。(関)国語への関心・意欲・態度、(話)話す・聞く能力、(書)書く能力、(読)読む能力、(言)言語についての知識・理解・技能

【活用観点について】 活用観点の表記の意味は、右記の通りです。(思)思考・判断力、(表)表現力

(8) 設問別分析(中学校数学)

通し番号	大問番号	中間番号	小問番号	解答形式	観点			活用観点	問題の内容	領域	出題のねらい	中学校学習指導要領	倉敷市		全国	
					関	考	知						正答率	無解答	正答率	差
1	1	(1)		短答		◎			計算の復習	数と式	分数の除法ができる。	小学6年A(1)イ	84.3	3.9	84.5	-0.2
2		(2)		短答		◎			分数の四則混合の計算ができる。		小学6年A(1)イ、ウ	59.3	5.6	57.8	1.5	
3		(3)		短答		◎			正の数・負の数		中学1年A(1)ウ	かっこを含む正負の数の減法ができる。	86.2	1.7	82.5	3.7
4		(4)		短答		◎			負の数の累乗の計算ができる。			83.0	1.8	82.3	0.7	
5		(5)		短答		◎			文字式		中学1年A(2)ウ	同類項をまとめることができる。	55.2	1.9	60.1	-4.9
6		(6)		短答		◎			1次式の減法ができる。			56.1	4.9	55.2	0.9	
7		(7)		短答		◎			分子が1次式である分数の加法ができる。			16.1	15.2	20.9	-4.8	
8	2	(1)		短答		◎			1次方程式	数と式	簡単な1次方程式を解くことができる。	中学1年A(3)ウ	92.3	3.8	92.3	0.0
9		(2)		短答		◎					係数に小数を含む1次方程式を解くことができる。		73.7	7.4	70.5	3.2
10		(3)		短答	○	◎							49.0	13.7	46.3	2.7
11	3			短答		◎	○		1次方程式	数と式	比例式を解くことができる。	中学1年A(3)ウ	61.2	18.7	57.9	3.3
12	4	(1)		選択		◎			正の数・負の数	数と式	正負の数の大小関係を不等号を使って表すことができる。	中学1年A(1)ア	70.8	0.7	69.3	1.5
13		(2)		選択		◎					絶対値について理解している。		88.7	0.9	84.8	3.9
14	5			選択	○	◎	○		文字式	数と式	数量の間の関係を不等式に表すことができる。	中学1年A(2)エ	61.7	0.8	55.6	6.1
15	6			選択	○	◎			1次方程式	数と式	1元1次方程式をつかって問題を解決するために、数量の関係をとらえ、2通りに表せる数量に着目することができる。	中学1年A(3)ウ	61.9	1.0	60.5	1.4
16	7			選択		◎			比例・反比例	関数	具体的な事象の中には比例を用いて捉えられるものがあることを理解している。	中学1年C(1)イ	61.2	1.1	60.6	0.6
17	8			選択	○	◎			比例・反比例	関数	反比例の関係で、比例定数とx、yの値の変化の関係について理解している。	中学1年C(1)イ	41.5	2.1	42.4	-0.9
18	9	(1)		選択		◎	○		比例・反比例	関数	比例の関係を表す表から、比例の式を表すことができる。	中学1年C(1)エ	71.7	1.1	70.8	0.9
19		(2)		選択		◎	○				反比例の関係にある1組のx、yの値から、反比例の式を求めることができる。		67.1	1.5	61.0	6.1
20	10	(1)		選択		○	◎		比例・反比例	関数	反比例の関係の比例定数の正負から、そのときの反比例のグラフを選ぶことができる。	中学1年C(1)エ	49.0	1.4	45.9	3.1
21		(2)		短答		◎	○				比例の式から、比例のグラフをかくことができる。		57.6	8.6	52.1	5.5
22	11			選択	○	◎	○	思	比例・反比例	関数	具体的な事象とグラフを関連付けて読み取り、もっとも多く水が出る蛇口を表したグラフを選ぶことができる。	中学1年C(1)オ	71.4	1.3	72.9	-1.5
23	12			選択		○	◎		平面図形	図形	三角形を対称移動させたときに、その三角形と重なる三角形がわかる。	中学1年B(1)イ	81.9	1.2	82.5	-0.6
24	13			短答	○	◎			平面図形	図形	直線上にない点から、その直線への垂線を作図することができる。	中学1年B(1)ア	77.5	10.3	76.8	0.7
25	14	(1)		選択	○	◎			空間図形	図形	角柱の直線と平面の位置関係について理解している。	中学1年B(2)ア	48.0	1.8	50.9	-2.9
26		(2)		選択		◎					三角錐の投影図を選ぶことができる。		中学1年B(2)イ	57.3	1.8	53.8
27	15	(1)		選択	◎	○			空間図形	図形	円錐の展開図から、その表面積を求める式を選ぶことができる。	中学1年B(2)ウ	58.3	2.6	60.4	-2.1
28		(2)		選択		◎					球の体積を求める式を選ぶことができる。		58.6	2.0	53.7	4.9
29	16			選択	○	○	◎		空間図形	図形	底面積が等しい円錐と円柱の体積の関係について理解している。	中学1年B(2)ウ	42.4	2.5	44.2	-1.8
30	17	(1)		短答		◎	○		資料の散らばりと代表値	資料の活用	度数分布表から、階級の相対度数を求めることができる。	中学1年D(1)ア	34.6	18.7	38.3	-3.7
31		(2)		選択		◎					平均値について理解している。		78.7	2.1	78.5	0.2
32		(3)		選択		○	◎						ある数の真の値の範囲を不等号を使って表すことができる。	中学1年D(1)	38.9	3.0
33	18	(1)	①	短答	○	◎	○	思	正の数・負の数	数と式	ロンドンを基準にして正負の数で表された時差から、東京の時刻を求めることができる。	中学1年A(1)エ	59.5	9.1	55.5	4.0
34			②	短答	○	◎	○	思			ロンドンとバンクーバーの時刻から、ロンドンを基準にしたときの時差を負の数を使って表すことができる。		39.1	12.3	39.2	-0.1
35		(2)	記述	○	◎	○	表	ロンドンを基準にしたときの時差を利用して、東京を基準にしたときのモスクワとの時差を求める方法を説明することができる。			57.8		27.9	56.4	1.4	
36	19	(1)		短答	○	◎	○	思	資料の散らばりと代表値	資料の活用	ヒストグラムから、度数の合計を読み取ることができる。	中学1年D(1)ア	70.0	9.7	67.6	2.4
37		(2)		記述	○	◎	○	表			示された判断の理由を、2つのヒストグラムの特徴をもとに説明することができる。		中学1年D(1)イ	59.6	27.3	60.0

【観点について】 ◎が主たる観点、○が従たる観点を表しています。観点の表記の意味は右記の通りです。(関)国語への関心・意欲・態度、(話)話す・聞く能力、(書)書く能力、(読)読む能力、(言)言語についての知識・理解・技能

【活用観点について】 活用観点の表記の意味は、右記の通りです。(思)思考・判断力、(表)表現力

(9) 設問別分析の結果から【○成果 ●課題】

◆小学校国語について

- 漢字の読み書き[2(1)・(2)]については、昨年と同様に全国平均を上回っている問題が多い。全国平均を上回った問題のうち、その差が最も大きかったのは、「そくたつ」を書く問題であった。「関係」「象」を読む問題については、いずれも正答率が97ポイントを上回っている。漢字の読み書きについては、練習を繰り返すことにより、確実に力がついている。
- 「読むこと」に関する問題については、説明文の内容を読み取る問題[5]より物語の内容を読み取るもの[4]の方が、概ね全国平均との差が小さい。
- 漢字辞典の使い方の理解に関する問題[3(4)]については、全国平均を10ポイント下回っている。
- 全国平均を下回った問題の中で、10ポイント以上の差があった5問のうち、4問は「書くこと」の領域に関わる記述式の問題であった。この4問は、いずれも無解答率が15ポイント以上であった。
- 文の構成（連用修飾語）について理解する問題[3(2)]では、正答率が40.0ポイントとなっており、昨年度(25.4ポイント)よりは改善しているものの、昨年同様にすべての問題の中で最も正答率が低い。

◆小学校算数について

- 億と兆や概数の表し方を理解する問題[2(2)]では、全国平均を3.4ポイント上回っている。正答率は88.9ポイントと高く、無解答率は0.9ポイントと低い。
- 帯分数のたし算・ひき算[1(7)・(8)]では、正答率が共に全国平均を上回っている。特に[1(8)]の「帯分数－真分数＝真分数の同分母分数」の計算は、正答率も86.3ポイントと高い。
- 直方体から平行な辺を見つける問題[15]では、全国平均を0.9ポイント上回っている。図形問題の全4題のうち、[15]のみが立体を利用した問題であるが、その問題については全国平均を上回っていることから、立体の定義が身に付いている。
- 面積「量と測定」において、およその面積を求める問題[12(2)]では、正答率が13.0ポイントと極めて低い。[12(1)][13]のように面積を求めたり、求める式を選んだりする問題では、全国平均とほぼ同じことから、量感をつかむ力に課題があると考えられる。
- 大きく見積もって考える問題[21(2)]では、市の平均正答率は9.0ポイントと全出題の中で最も低い。また、無解答率も39.1ポイントと高くなっている。「概数の利用」及び「見積もる意味」についての理解に課題が見られる。
- 数量関係「計算のきまり」の問題[10]においては、正答率が39.1ポイントと低くなっている。工夫して計算する四則混合問題の理解が十分にできていないため、効率よく計算しようとする思考力も低いと考えられる。

◆中学校国語について

- 漢字を読む問題[2(1)]では、すべての問題で全国平均を上回っている。
- 文章を単語に分ける問題[3(1)]では、全国平均を 13.3 ポイント上回っており、昨年度と同様に生徒の理解度は高い。
- 現代仮名遣いに直す問題[3(3)]では、全国平均を 7.6 ポイント上回っている。
- 故事成語の意味を答える問題[3(4)]では、全国平均を 3.6 ポイント下回っている。
- 条件を設定した中で自分の考えを書く問題[7]の 4 問については、すべての条件において全国平均を下回っていた。この 4 問は、いずれも無解答率が 14.6 ポイントであった。
- 漢字を書く問題では、4 問中 3 問が全国平均を下回っている。その中でも特に、「未熟」を漢字で書く問題[2(2)②]については、正答率が 41.0 ポイントで、すべての問題の中で正答率が最も低く、「慣」を漢字で書く問題[2(2)③]については、すべての問題の中で無解答率が最も高かった。

◆中学校数学について

- 不等号を使った文字式の問題[5]では、全国平均を 6.1 ポイント上回っている。正の数負の数[1(3)(4)]や 1 次方程式[2(2)(3)]など、基礎的な計算問題については、全国平均を上回っている問題が多く見られる。
- 比例と反比例の問題[9(2)]では、全国平均を 6.1 ポイント上回っている。
- 資料の散らばりと代表値の問題[17(3)]では、全国平均を 5.7 ポイント上回っている。
- 文字式の問題[1(7)]では、正答率が 16.1 ポイントとなっており、すべての問題の中で最も正答率が低くなっている。また、全国平均と比べても正答率が 4.8 ポイント低くなっている。
- 相対度数を求める問題[17(1)]では、正答率が 34.6 ポイントとなっており、すべての問題の中で二番目に正答率が低くなっている。また、全国平均と比べても正答率が 3.7 ポイント低くなっている。
- [1(5)]の文字式の問題では、全国平均と比べて 4.9 ポイント正答率が低くなっている。加法と乗法を混同している誤答が多くみられた。

4 考 察

- ◇小学校・中学校とも、漢字を読むことについては全国平均を上回っている。漢字の読み書きについては、繰り返しの練習により確実に力がついている。
- ◇小学校においては、全国平均を下回る問題が多かったが、昨年度と比較すると、多くの領域や観点において全国平均との差が小さくなってきていることは成果であると考ええる。
- ◇中学校の数学においては、初めて教科全体として全国平均を上回ることができた。これは、全国学力・学習状況調査及び倉敷市学力調査を通して初めてのことであり、大きな成果であると言える。特に、中学校では、数と式といった計算問題や関数において改善がみられた。
- ◇国語では、小学校・中学校ともに昨年度に引き続き「書くこと」の領域に課題があることが明らかになった。特に、段落構成や字数制限等の条件が設定された文章を書くことにおける本市の平均正答率は、全国の平均正答率を大きく下回っている。言語活動の充実、特に書く力の育成については、授業の中で文章を読み、自分の考えを書く機会を多く設けることはもちろんのこと、児童生徒が書く活動を行う際には、文字数を指定したり、段落を指定したりする等、決められた条件を設定して考えをまとめていく学習をさらに取り入れることが必要である。国語だけでなく他の教科においても、児童生徒の実態に応じて、ある程度まとまった文章を書く練習を継続的に行うことが大切である。
- ◇算数・数学では、小学校・中学校ともに図形については正答率が低く、記述問題については無解答率が高いなど、昨年度に引き続き課題が見られる。図形の作図等については、授業の中で、図形の性質を踏まえた丁寧な説明や作図の仕方が身に付くまでの時間の確保、グラフの読み取りについては、算数・数学はもちろん、社会・理科等の他教科とも関連させながら、指導等の工夫を図ることが大切である。また、児童生徒が適切な作図道具を揃えているかどうか、今一度確認する必要がある。
- ◇各教科の平均正答率と全国平均を比較して、学習内容の定着が十分ではないと考えられる児童生徒については、授業中の個別指導や放課後等の補充学習等で定着を図ることが重要である。
- ◇本年度は、市の学力調査を始めて2年目となる。小学校5年生と中学校2年生に加えて、今年度7月には4年生の調査も実施した。このことで、本調査結果と全国及び岡山県学力・学習状況調査それぞれの結果を併せて活用し、小学校4年生から中学校3年生まで、個人の学力の達成状況及び学年全体の状況を継続して把握することが可能となった。今後、児童生徒一人一人の指導や、授業改善に積極的に生かしていくことにより、確かな学力の定着を図っていきたいと考えている。

〈参考資料〉

平成28年度倉敷市児童生徒学力調査の調査対象である中学2年生が、平成27年度に中学1年生として調査した岡山県学力・学習状況調査、平成26年度に小学6年生として調査した全国学力・学習状況調査の結果との比較。

※教科は、国語、算数・数学について掲載。

教科	国語				算数・数学			
	H26 (小学6年生)		H27 (中学1年生)	H28 (中学2年生)	H26 (小学6年生)		H27 (中学1年生)	H28 (中学2年生)
調査種類	【全国調査】		【県調査】	【市調査】	【全国調査】		【県調査】	【市調査】
	A問題	B問題			A問題	B問題		
倉敷市平均	71.7	54.9	63.6	72.0	77.8	55.6	62.7	61.7
岡山県平均	71.4	54.5	62.7		77.8	56.6	63.4	
全国平均	72.9	55.5		72.3	78.1	58.2		60.5
県との差	+0.3	+0.4	+1.0		0.0	-1.0	-0.7	
国との差	-1.2	-0.6		-0.3	-0.3	-2.6		+1.2